

令和5年度第3四半期景況調査結果

1. 今期、来期の状況

商工会では管内50事業所を対象に景況調査を実施しています。

この調査は経営者へのヒアリングを通じて四半期ごとに売上高や仕入単価、採算等を産業別（製造業、建設業、小売業、サービス業）

にDI値（※）により事業者の業況感を示すことで管内景気動向の参考とするものです。

※DI値とはDiffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で企業の業況感等を指指数化したもので、計算式は以下のとおりです。

DI = 「増加」企業数 - 「減少」企業数 / 回答企業数 × 100

建設業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比
売上高	▲42	▲50	▲25	▲9	▲37	▲28	▲42	▲34	▲18	▲27	▲9
資金繰り	▲17	▲25	▲9	▲36	▲50	▲14	▲33	▲25	▲18	▲18	0
仕入単価	60	91	64	70	50	▲20	73	55	70	20	▲50
採算	▲25	▲33	▲42	▲55	▲36	14	▲50	▲33	▲27	▲18	9
業況	▲25	▲33	▲17	▲36	▲18	18	▲33	▲25	▲18	▲27	▲9

製造業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比
売上高	10	27	13	0	▲14	▲14	0	0	▲29	▲14	15
資金繰り	▲10	9	25	0	▲14	▲14	▲27	0	▲14	▲14	0
仕入単価	78	64	63	43	57	14	73	63	14	29	15
採算	▲10	▲27	0	0	▲29	▲29	▲36	▲25	0	▲29	▲29
業況	▲10	▲9	▲12	0	▲29	▲29	▲45	▲12	0	▲14	▲14

小売業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比
売上高	▲8	0	▲50	▲60	▲57	3	17	▲12	▲80	▲29	51
資金繰り	▲42	▲8	▲38	▲60	▲57	3	▲8	▲38	▲60	▲43	17
仕入単価	91	100	75	40	57	17	82	62	40	43	3
採算	▲50	▲58	▲75	▲60	▲71	▲11	▲42	▲50	▲60	▲57	3
業況	▲33	▲25	▲62	▲40	▲57	▲17	9	▲37	▲40	▲43	▲3

サービス業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	前期比
売上高	▲33	▲8	30	26	12	▲14	▲15	▲40	0	12	12
資金繰り	▲25	▲23	10	▲13	▲13	0	▲15	▲20	▲25	0	25
仕入単価	92	92	70	62	75	13	77	70	50	63	13
採算	▲33	▲23	▲20	▲13	▲13	0	▲23	▲20	▲25	0	25
業況	▲33	▲23	▲20	▲25	0	25	▲23	▲20	▲13	0	13

【所感】

「売上高」は、今期（10-12月期）は小売業では改善、それ以外では悪化しています。来期（1-3月期）は冬期間となる建設業以外では改善を見込んでいます。

「資金繰り」は、建設業と製造業で悪化、サービス業は現状維持、小売業では小幅な回復となりました。来期は建設業と製造業は現状維持、小売業とサービス業は改善の見込みです。

「仕入単価」は、前期に続き値上がり基調で推移しているものの、建設業では一部改善の様子が伺えます。

「採算」は建設業で改善、サービス業では現状維持、製造業と小売業では悪化しました。来期は製造業以外は改善を見込んでいます。

「業況」は、建設業とサービス業で改善、製造業と小売業では悪化となり、前期の見通しのとおりとなっています。

総じて一部の項目で改善の兆しがあります、仕入価格の転嫁がコスト高に追い付かず採算や資金繰りを圧迫している状況が続いています。

2. 設備投資

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12
今期設備投資を実施した	16%	6%	11%	0%	12%
実施していない	84%	94%	89%	100%	88%
来期設備投資を予定している	8%	8%	5%	3%	3%
予定していない	92%	92%	95%	97%	97%

今期実施した設備投資の内容は車両、店舗、建物付帯設備、その他となっています。

来期の設備投資見込みは前回同様で3%となっています。

3. 経営上の問題点

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12
原材料価格の上昇	30	31	19	13	18
原材料費、人件費以外の経費の増加	14	15	9	12	10
ニーズの変化への対応	8	7	14	7	6
需要の停滞	7	10	9	8	11
生産設備の不足、老朽化	5	4	4	4	3
従業員の確保難	4	3		14	3
人件費の増加	4	3	5	2	5
製品(加工)単価の低下、上昇難	3	1	2	1	
大企業の進出による競争の悪化	2	3		1	
熟練技術者の確保難	2	1		1	1
新規参入業者の増加	1	1			
原材料の不足	1		1		1
金利負担の増加	1	1	4		
事業資金の借入難	1	1	4	1	2
取引条件の悪化		1	3	1	1
購買力の他地域への流出					2
その他	5	3	1	3	1

前期に引き続き「原材料価格の上昇」、「原材料費・人件費以外の経費の増加」が上位にあるものの、回答数自体は減少傾向にあります。その他、「需要の停滞」、「ニーズの変化への対応」が多く問題点として挙げられています。

4. 自由記述

仕入先から在庫なしで断られたり、時間がかかったりして仕入に苦慮している。(小売業)

少しずつイベントが増えたことで売上が伸びた月もあるが、ビール等の値上がりもあり仕入れが厳しくなっている。

資金繰りが少々苦しいので在庫が持てなくなり、チャンスロスになってしまう。(小売業)

宴会に関して、大人数はないが少人数は復活している。燃料の高騰が困っている。コロナで3~40%減少し、今年は20%位まで回復したが、元通りには回復していない。給付金もなくなり厳しい。(小売業)

従業員の数が少ないため、各自の負担が増えている。売上アップをしたいが、満室まで予約を受付できない。求人募集を出しても中々難しい。

人材派遣はコストが高くて逆に赤字になってしまう。(サービス業)

様々な物価が上昇し、影響を懸念している。インボイス開始に合わせて関係先とのやりとりに気を付けている。(製造業)

前期に比べ仕事が徐々に減少しており、今後に不安がある。(建設業)

5. コメント

(全国の動向)

10月の産業全体の業況は、売上高・採算・業況DIが小幅に改善、資金繰りDIが大幅に改善し、全DIが改善した。

業種により異なるものの、価格転嫁は進んでいるが、コスト上昇の勢いに追い付かず、利益は変わらないとのコメントが見られた。

外出機会の増加や、インバウンド需要は伸びを見せており、業況好転の兆しがみられる中で、賃金引き上げや、インボイス対応、

人手不足対策に苦慮する事業者は多い。

(管内の動向)

コロナの5類移行を受け特にサービス業では、秋の行楽シーズンの賑わいもあり一定の回復が見られました。

但しいずれの業種でも仕入れコストが高止まり状態にあり、価格転嫁、利益確保には苦慮している様子です。

適切な商品サービスの価格設定のためには「どの部門が利益を生み出しているのか」、「売上に対する原価は幾らか」といった管理会計が欠かせません。商工会では小規模事業者の記帳指導も行っています。お気軽にご相談ください。